

【道内の周遊動向】

- 各国共通、夏季は道央が多いながらも全道に分散
- イギリス・ドイツは冬季は道央に集中
- フランスは、夏季と同様冬季も引き続きまんべんなく全道を周遊する傾向
- 各国共通、夏冬共通して、道北を訪れる人が一定割合でいる。目的は夏季は大雪山トレッキング、冬季は旭川周辺、富良野・トマムでのスキー

旅行中の道内の訪問地について、夏季は3か国とも道央が多いながらも全道に分散するが、冬季はイギリスとドイツは道央に集中し、フランスは、夏季と同様冬季も引き続きまんべんなく全道を周遊する傾向があるといえる。それは、フランスは冬季にも道内滞在期間が他の国に比べて短縮されないことと、特に道南訪問については冬季もJRで北海道へ入るケースがあることと相関すると推測される。

また、3か国ともに夏冬共通して、道北を訪れる人が一定割合でいる。目的は夏季は大雪山トレッキング、冬季は旭川周辺、富良野・トマムでのスキーである。ニセコの認知度は極めて高いが、その一方でアンケート実施時には「ニセコは豪州人が多すぎる」、「ニセコ以外でもスキーを楽しみたい」という声が多く聞かれたことから、今後は道北エリアのスキー場をはじめとした新たな北海道スキーの可能性と魅力に関する情報発信が重要であるといえる。

さらに、アンケートの選択肢にないスキー場としてテイネ（札幌市手稲区）をあげる声がよく聞かれた。テイネはLonely planetにも取り上げられており、時間的にニセコまで足を延ばす余裕がない人や札幌でも手軽にスキーを楽しみたい人たちに支持されていると考えられる。

こうしたニセコ以外のスキー場にも魅力があることが徐々に欧州人のあいだで認められつつあるため、北海道でのスキーには幅広いバリエーションがあり、個々の好みに合わせたスキーの楽しみ方が可能であることをプロモーションしていくことが重要であると考えられる。ワークショップで得られた意見では、特に、スキー場から海を臨む景色は欧州人にとってはそれだけで魅力的な景観ということだった。（図4-8）

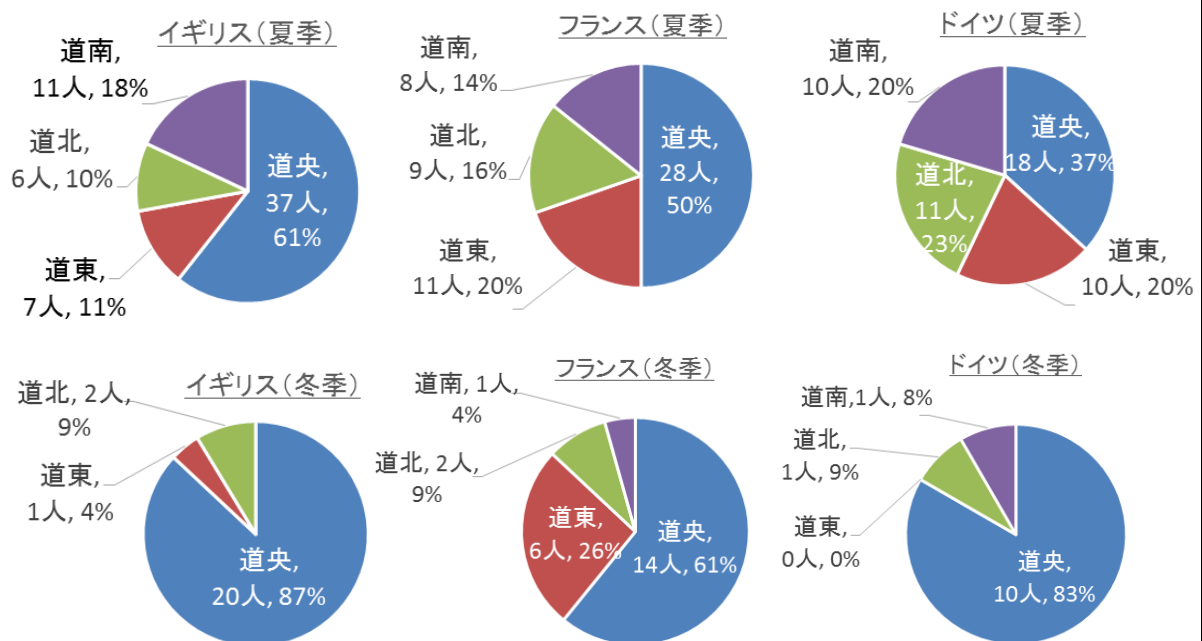


図 4-8 道内の訪問地（上段夏季、下段冬季）

【その他の特徴・留意点】

■ プロモーションに関して

プロモーションに際しては、国立公園の自然の魅力とともに、そこでどのようなアクティビティが可能であるかも合わせて発信していく必要があると考えられる。さらにそのために現状では不十分な受け入れ態勢（エリア情報、アクセス、英語による案内板、キャンプ場など）をいかに整備していくかが重要であろう。

■ 言葉（英語）の問題について

市町村アンケートやヒアリングで観光推進のうで英語対応の遅れが指摘されたが、実際のアンケートで言葉の問題に触れた件数は、夏冬合わせて188件中10件と少なかった。また、スキー場の選択理由に入れた「英語対応の整備」を選んだ人は1人（イギリス）だけだった。具体的な手続きが必要な場合（レンタカーの予約など）はともかく、英語環境の充実はこちらが考えるほど完璧をめざす必要はないといえる。彼らが最低限必要としている情報を英語で提供できれば、過度な心配は不要と思われる。

■ 観光地以外のまちの魅力について

調査の対象国以外ながら北海道で自然を楽しむ方法として、示唆を含む意見もあった。豪州人があえて人気のニセコでのスキーを避け、北海道のローカルな町に滞在しながらクロスカントリースキーを楽しむことをすでに5年、6年続けているという。そこでは地域の人とコミュニケーションしながら地域の日常を過ごすことを旅行の楽しみとしているということだった。異文化体験というほど大げさではないが、自分たちのペースで非日常を楽しむ術を持つ人には、北海道の地方都市は自然に恵まれ、かつ安全で落ち着いた環境が休暇を過ごすにはすばらしいと感じられるのだ。こうした声を欧州に発信していくことは、観光資源に乏しいと思いがちな地方の市町村にとって有効なプロモーションの切り口になると考えられる。

B.イタリア・スペイン・オランダ動態分析

イタリア、スペイン、オランダについて、平成 25 年度の新千歳空港入国者数データ（法務省）によると、入国者数の多い順にオランダ、イタリア、スペインとなり、その比率は 2:3:1 である。アンケートのサンプル数も、比率は若干異なる（3:5:1）ものの、ほぼ似た傾向を示した。

アンケートによると、夏季は「自然」「国立公園」に関心を持ち、「観光」「登山・トレッキング」「温泉」、冬季は「雪・自然」「スポーツ」に関心を持って「スキー」を楽しみ、安価な宿泊先（バジェットホテル、ユースホステル、ゲストハウス）に泊まりながら、1～2 週間かけて JR で周遊するという志向や動向に、他の欧州全体の傾向と大きな差異はなかった。少ないサンプルながら少し特徴的な傾向としては、

- 動向や志向に、欧州他国との大きな差異はない
- 北海道への移動方法は飛行機が大半で JR が少ない
- 冬季の関心事に主要 3 か国で関心が高かった「雪まつり」をあげる人が極めて少ない
- オランダ人は訪日旅行全体で北海道に滞在する期間が長め

雪まつりをあげる人が少ないのは、認知度が低いのか知っていても関心が低いのかは不明である。

実際のアンケート実施所感としては、オランダ人は服装、持ち物などから受ける印象、アンケート以外の質問内容などをみても他国と違いはなかった。スペイン人については、若いグループ旅行者から札幌でのナイトライフについての質問があったことが印象的であり、全体的に滞在日数が長い欧州人に対するプロモーションにおいては、アウトドアアクティビティーに関する魅力と可能性だけでなく、文化的側面の情報の充実も合わせてはかかっていくことが重要であると考えられる。